

私たちと 大和川

～高田川～

第8回発刊の「私たちと大和川」では、桜の名所で有名な「高田川」を取り上げ、川の様子や周辺のおすすめスポットなどについて紹介します。

・水系／一級水系大和川 ・全長／13km ・流域面積／27平方km

1. 概要

高田川は大和盆地を流れる曾我川の支流の一つで、葛城山系の山裾に発します。源流部は高田川南流と高田川北流に分かれており、南流は葛城市平岡の上新池付近より北東へ流れ、北流は葛城市寺口の葛城山麓公園付近より南藤井地区を貫流、二つの流れは葛城市葛木で一つになります。そして、大和高田市・広陵町を貫流後、河合町長楽で曾我川に合流しています。

高田川堤には桜木が多く、毎年桜の開花期には多くの花見客で賑わいます。

高田川は、1932年（昭和7年）から11年の歳月をかけて付け替え工事が行われ、現在の位置になっていますが、それまでは、現在の「県道大和高田・斑鳩線」のところを流れていました。

江戸時代「高田」の街はこの川により東西に分割されており、川東の農業を主とする“本郷”と、川西の商業を主とする“寺内町”は、政治・経済的に対立していたそうです。

また、当時「高田」の街は木綿の産地として栄え、高田川は製品の運搬路として多くの人々に利用されていました。しかし、街の中央部を流れていたかつての高田川は市街地で大きく蛇行しており、大雨時には氾濫し、大きな被害をもたらすことがしばしばありました。

そのため、上流の東中地区から下流の神楽までの付け替え工事が行われ、現在の「高田川」に姿を変えることになったのです。「県道大和高田・斑鳩線」がS字型に蛇行しているのはその名残であり、今も沿道には橋の一部や歴史顕彰板が設置されています。

また、高田川には「中将姫伝説」（中将姫が高田川を船で移動し安部村に上陸、築山村に滞在後当麻寺へ入ったという伝説）があり、別名「中将川」とも呼ばれています。

高田川は美しい桜で有名な場所です。お花見の後に、かつて流れていた「高田川」の情景を思い、過去に想いを馳せながらゆっくりと沿道を散策してみるのも良いのではないのでしょうか。

- <参考>
- ・ <http://www42.tok2.com/home/kansairiver/takada.htm>
 - ・ <http://agua.jpn.org/yamato/soga/takada.html>
 - ・ <http://kentei.cc/k/1464829/>
 - ・ <http://www.city.yamatotakada.nara.jp/city/rekishi/takadagawa/index.html>
 - ・ <http://www.city.yamatotakada.nara.jp/city/rekishi/takadagawa/kensho.html>



大和信用金庫

<http://www.yamato-shinkin.co.jp/>

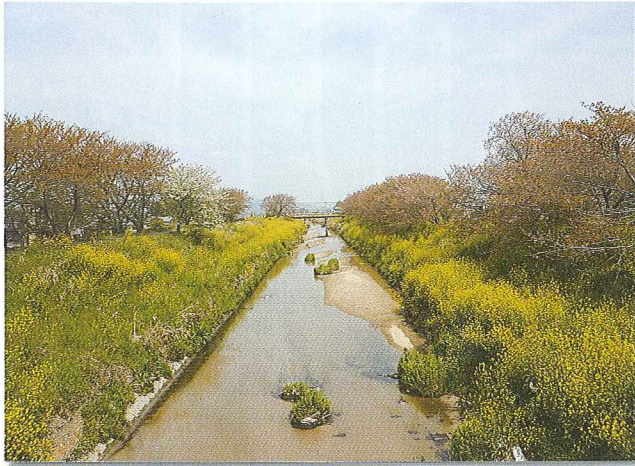
よみがえれ! 大和川清流復活ネットワーク
大和川清流復活大作戦

<http://www.yamato-river.net/>

2. 高田川の様子

春の季節、高田川の流域は多くの桜や菜の花が咲き乱れ、特に美しい装いとなります。

しかし、その自然の美しさに反し、中流から下流にかけての水は濁り、花見の宴のものと思われるごみが捨てられていたのがとても残念でした。



高田川上流



高田川中流

3. 近隣の河川

曾我川 (そががわ)

奈良県中西部を流れる大和川水系の一級河川で、奈良盆地西部を北流する大和川の支流の中では最大級の支流です。

竜門山地の重阪峠西側に発し、奈良盆地南部の田園地帯を潤しつつ橿原市西部を抜け、大和高田市松塚付近から西側に葛城川が、田原本町大網付近から東側に飛鳥川が、並行して流れています。広陵町大場で葛城川を、河合町長楽で高田川を合わせ、約1.3km北流したのち大和川に注いでいます。



葛下川 (かつげがわ)

奈良県西部を流れる大和川中流部の支流。

葛城山系岩橋山東麓に発し、葛城市、大和高田市を貫流、香芝市下田付近からはJR和歌山線と並行して流れています。香芝市と上牧町の境を北上の後、王寺町葛下から大きく曲流し、王寺町王寺の出合橋付近で大和川に注いでいます。

昭和57年8月には集中豪雨により、大和川の水位が上がり葛下川に逆流したため、「王寺大水害」を引き起こしました。

4. 周辺の観光スポット

奈良の中部・中西部に位置する高田・広陵エリア。今回調査した高田川や曾我川、葛下川などが流れるこのエリアは、近畿圏の中心地大阪にも比較的近く、交通の便の良さもあって昔から発展してきました。今回はそんな中でもおすすめの観光スポットを紹介します。

①大中公園、高田千本桜（おおなかこうえん、たかだせんぼんざくら）

高田川畔の千本桜は大和高田の市制施行1948年（昭和23年）に植樹されたものです。千本桜は樹齢60年を超え、毎年3月下旬から4月上旬にかけては、大中公園を中心に川の兩岸南北2.5kmにわたり、見事な桜並木を見せてくれます。

お花見のシーズンには、ライトアップされた夜桜を見物する人の波は絶えることがなく、桜の下で賑やかに宴が開かれます。

[千本桜の秘話]

毎年、多くの人を喜ばせてくれる高田川畔の桜ですが、今の姿となるには、こんな“ものがたり”がありましたので紹介します。

昭和23年、市制を記念して高田川堤防の延長2キロメートルに桜並木をつくる計画が立てられました。桜の苗木は大和高田市内の町内会から、数本ずつの寄贈をうけることでその数は千本を少し越え、文字どおり市民の桜になります。

苗木は吉野山保勝会へ斡旋を依頼し植樹することになりましたが、ここでひとつの挫折がありました。

河川の堤防に桜を植樹すると堤防を弱くする恐れがあると主張する県の許可が得られず、計画がストップしてしまったのです。そこで当時の奈良軍政府司令官ヘンダーソン大佐に協力を求めました。将校食堂でヘンダーソン大佐への説明が終わると、軍曹がボール箱でつくった寄付箱を持って食卓をまわってくれ、30分ほどで250本分の寄贈を受けました。そして、将校とその夫人、子どもたちの名前を書いた小さな名札をつくって苗木につけ、一挙に250本を堤防の安全な位置に植樹したところ、それにならって千本の桜の苗木が植えられたというお話です。

おかげで今は多くの品種が集められ、人々を楽しませてくれています。



大中公園



千本桜

②馬見丘陵公園（うまみきゅうりょうこうえん）

馬見丘陵は、香芝市・広陵町・河合町など2市3町にまたがる標高70m程度の東西約3km、南北約7kmに及ぶ低い丘陵地で、日本でも有数の古墳が集中している地域です。公園内には、古墳を分かりやすく説明した展示のある公園館や、本物の古墳を復元し実際に頂上まで登ることの出来るナガレ山古墳などがあり、見て・楽しんで・学ぶ環境が整えられています。また菖蒲園やバラ園など一年を通じて様々な花が咲き乱れ、豊かな自然を楽しむこともできます。もちろん遊具や砂場などもあり、一日ではまわりきれないスケールの多目的公園です。

③竹取公園（たけとりこうえん）

竹取公園は、馬見丘陵公園の南エリアのすぐ近くにある公園です。園内にはソリ遊びの楽しめる「ちびっこゲレンデ」や、古墳時代の高床式倉庫や竪穴式住居を復元した「古代住居広場」など、なかなか他の公園にはない魅力的な施設が用意されています。

またこの公園付近は、日本最古の物語といわれる『竹取物語』の舞台とも言われています。かぐや姫が竹取の翁に育てられ、やがて5人の若者や帝に求婚されるが、月へと昇って行ってしまおうというお話は皆様よく御存じのことだと思いますが、諸説あるなか物語の舞台として有名なのが広陵町です。

根拠は主に2つあります。1つは5人の求婚者の名前が「壬申の乱」に関係する実在の人物名と比定する点。「壬申の乱」の後、都は奈良の飛鳥にあったので、5人の住まいを考えると奈良の可能性が高いように思えます。もう1つは、竹取の翁の名です。さぬきの造（みやつこ）と物語中に語られていますが、竹取公園のある「奈良県広陵町大字三吉」は古代には「大和国広瀬郡散吉」という地名で「散吉」はサヌキと読みます。竹取公園のすぐ隣には讃岐（さぬき）神社もあり、このことから「この地が竹取の翁の住んでいた場所として竹取物語の中で想定されていたのでは？」とされているのです。

公園内には、有名漫画家、里中満智子さんによって描かれた、『竹取物語』のストーリーを紹介したパネルも多数展示されています。パネルを見て、歴史ロマンに思いを馳せながら竹林を散策して見るのも、公園の楽しみ方の1つとしてオススメです。



馬見丘陵公園（公園館内）



竹取公園

- <参考>
- <http://park.geocities.jp/taketorikouen/index.html>
 - <http://www.town.koryo.nara.jp/>
 - <http://www.asuka-tobira.com/taketori/taketori.htm>
 - <http://www.pref.nara.jp/1780.htm>
 - <https://www.city.kashihara.nara.jp/>



お問い合わせ：大和信用金庫 CSR委員会事務局 0744-42-9001